

あるいは崖となっているので、単にこの小沢だけの土石留工事で落石を防止することは出来ない。現に昨年春この小沢を訪れた際、沢以外から落石があり、危険な状況に遭遇した経験がある。

7. 上記のようにこの地域は耐えず落石の危険があるので、むしろ立入を禁止する対策が必要である。
8. 工事用の道路は建設終了後でも人が容易に入り易くなり、人の導入口の役割をになうことになり、周辺の自然が荒らされることに関連するばかりでなく、落石による被害の発生の可能性も大きくなる。被害が生じた場合、道路を作ったことの責任を問われることも皆無ではないと考える。(一旦車の通れる道路を作った後、工事終了

後、侵入禁止してもその道路沿いに人が入りやすくなり、現状よりも多くの人を訪れる可能性が大であり、危険度も増す。

9. 観光目的に工事後の道路に使用するような計画がもしあるとすれば、トチノキ林の保護に逆行することになる。危険もあり、大きなトチノキの観光目的の行為は避けるべきであろう。
10. 工事の目的が、下方の林道を通る車や人のためであるならば、林道の山側に沿って落石を防ぐコンクリート壁を建設して林道と崩壊地とを隔てる方が、土石留工事を行なうより経費が安く済むであろう。(石沢 進)

弥彦山脈植物友の会

『物部の 八十少女らが 汲みまがふ 寺井の上の 壺香子の花』

越中国守、大伴家持(万葉集[4143] 750年頃)に歌われたカタクリの花は、一説に今の(コシノ)コバイモとの意見もあります。ともに雪国の春を実感する喜びの象徴であります。

1200年余の悠久の時を経てカタクリは今年も、そして来年も咲き続けるでしょう。私たちの代で、この自然の恵みたる輪廻の輪を断ち切る事のないよう、未来永遠に豊かな自然を引き継ぎたいとの願いを込め、また、弥彦山、カ=角田山、タ=多宝山、ク=国上山、リ=輪廻を掛言葉とし、当会の名前と、会誌名『カタクリの詩』の由来としています。

“植物を愛し、大事に思い、植物をありのままに理解したいと願う方ならどなたでも参加してください”との呼び掛けで、1992年春に発足して今年で3年目になります。

設立者の一人、刈屋 寿氏の熱心な植物指導のもと、行事と、植物勉強会を組み合わせ、ほぼ月1回のペースで活動しています。山菜の会、ソーメン流しの会、芋煮会、バーベキュー会など、いつしかグルメの会も兼ね、抹茶点前も特徴としております。参加者も老若男女幅広く、家族ぐるみのファミリーな構成です。今年度の勉強会のテーマとして、角田山登山道に沿って、順次四季毎に植物分布案内書を纏めたく、一年二コースを調査目標にしたいと考えております。

人はその器に従うと言葉も在ります。自然を等身大そのままに把握する事から、おうぎょうでない、私たちに出来得る自然保護について模索して行きたいと考えております。会の趣旨に共感された方々のご参加をお待ち致しております。

『花をのみ待つらん人に山ざとの雪間の草の春を見せばや』

『年々歳々花相似 年々歳々人不同』

弥彦山脈植物友の会

西蒲原郡岩室村大字和納1966-56

TEL 0256-82-4368 横内 忠紀